



ていがくねん
低学年におすすめ！



『もりのかくれんぼう』

(作：末吉 暁子 絵：林 明子 / 偕成社)

公園で遊んだ帰り道、お兄ちゃんとはぐれてしまったけいこは、大きな森に迷いこんでしまいます。森で出会った不思議な男の子に誘われて、動物たちとかくれんぼをすることになったけいこ。最初はけいこがおにです。

くまやきつね、いたちなど、森の木々や草むらの中に上手にかくれる動物たち。みんないったいどこにかくれているのでしょうか？



『あきまつり

ピーヒャラおはやしの日！』

(作：ますだ ゆうこ 絵：たちもと みちこ / 文溪堂)



もうすぐ、町の秋祭りです。さるとるは今年初めておはやしで笛をふくことになりましたが、なかなか上手にふくことができません。そんなとき、練習を休んで遊びにいった森で、鳴き声のきれいな鳥に出会います。

お祭りの豆知識、どんどんやきなどの屋台のレシピ、工作などもついていて、この時期にぴったりの楽しく学べる一冊です。





ちゅうがくねん

中学年におすすめ！

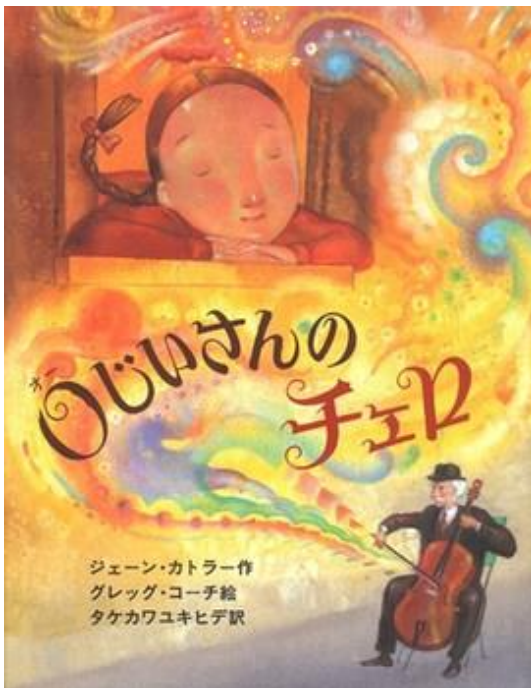


『はりねずみのルーチカ』

(作：かんの ゆうこ 絵：北見 奈胡 / 講談社)

ジャム^{つく}作りと歌^{うた}が大好き^{だいす}なルーチカは、
 友達^{ともだち}思いの心^{おも}やさしいはりねずみ。おなか^{なか}が
 すいている人^{ひと}のために、いつも頭^{あたま}にりんごを
 のせて^お歩いて^ひいます。ある日^{ある}ルーチカは、あか
 すぐりの実^みでおいしいジャム^{つく}を作るため、仲
 よし^{なか}のもぐらソル^{いっしょ}と一緒に^{もり}森へ^で出かけます。
 そこでふたり^{ふたり}が^あ出会^あったのは……？

読^よみ進^{すす}めるごとに優^{やさ}しい気持^{きもち}ちになれる、
 友情^{ゆうじょう}の物^{もの}語^{がたり}です。



『おじいさんのチェロ』

(作：ジェーン・カトラー 絵：グレッグ・コーチ

訳：タケカワ ユキヒデ / あかね書房

戦争^{せんそう}でめ^めちゃく^{ちゃ}ちゃにな^なってしま^まった町^{まち}
 の人^{ひと}々は、週^{いっしょくば}に一回^{いっしょくば}配^{はく}られる物^{ぶつ}資^しをもとめ
 て広^{ひろ}場に^{あつ}集^あまります。そこには、ろくに人^{ひと}
 と話^{はな}もせ^せず、「オー」と怒^{おこ}ってばか^おりの「おじ
 いさん」もいま^ひました。ある日^{ある}、広^{ひろ}場^ばが攻^{こう}撃^{げき}
 うけ、人^{ひと}々は恐^{おそ}怖^{おそ}におび^おえます。そんな中^{なか}、
 おじい^おさんがチェロ^ちを弾^ひき始^{はじ}めて……。

音^{おん}楽^{がく}のすばらしさ^{かん}を感じ^{かん}ながら、戦^{せん}争^{そう}につ
 いても考^{かん}えさせ^さられる作^{さく}品^{ひん}です。



こうがねん
高学年におすすめ！



『3びきのかわいいオオカミ』

(文：ユージーン・トリビザス 絵：ヘレン・オクセンバリー
訳：こだま ともこ / 富山房)

あるところに、3びきのかわいいオオカミ
がお母さんと一緒にくらしていました。ある
日おかあさんが言います。「おまえたち、そろ
そろかあさんの家をでて、自分たちの家をつ
くりなさいな。でも、悪い大ブタには気をつ
けるのよ。――」

「3びきのこぶた」のブタとオオカミの立場が逆転！
オオカミたちは、悪いブタから家を守ることができるのでしょうか！？



『かくれ山の冒険』

(作：富安 陽子 / PHP研究所)

月の中にうさぎではなく、黒いねこが
いるのを見つけた小学生の尚。ボールを探し
に雑木林の中に入ると、そのまま「かくれ
山」という非現実の世界に入り込んでしま
います。ねこの声に導かれるように森の中
を進んでいくと、たどり着いたのは一軒の
大きなお屋敷でした。

別世界を脱出するまでの冒険と成長を
描いたファンタジーです。